

創世記6-7章 「水の裁きからの救い」

アウトライン

1A 箱舟の建設 6

1B 墮落した地 1-8

2B 主との契約 9-22

2A 洪水の裁き 7

1B 七日前の警告 1-10

2B 全世界を覆う水 11-24

本文

私たちは前回、カインの子孫が文明を発達させながらも、暴虐に満ちていた話を読みました。カインはアベルを殺しましたが、カインの子孫レメクが人殺しを自分の妻に自慢していました。そして、6章はその暴虐が世界に満ちている姿を描いています。そして、主なる神はご自分がお造りになった人がこのようになったことに心を痛み、洪水によって人を滅ぼすようにされます。しかし、主の名で祈り始めた、セツの子孫を前回は読みました。その子孫にノアがいます。父レメクは、彼をメシヤとして期待していました。この子が慰めを与えてくれるだろうと言っていました。彼の期待は外れましたが、けれどもノアによって、後に来られるキリストの救いを表しています。

そしてこの神の裁きが、イエス・キリストが再び来られる時も同じようにこの地に下ることを、イエス様がお話しになります。興味深いことに、私たちは昨晚、恵比寿バイブルスタディでルカ 17 章を読みました。26 節からです。「人の子の日に起こることは、ちょうど、ノアの日に起こったことと同様です。ノアが箱舟にはいるその日まで、人々は、食べたり、飲んだり、めとったり、とついだりしていたが、洪水が来て、すべての人を滅ぼしてしまいました。(26-27 節)」ノアの時代に世界が暴虐に満ちたように、今の世にも悪が満ち、イエス様がそれを裁くために戻ってこられる、というのです。

1A 箱舟の建設 6

そしてその当時の世界の様子を、著者のモーセは次のように描いています。

1B 墮落した地 1-8

6:1 さて、人が地上にふえ始め、彼らに娘たちが生まれたとき、6:2 神の子らは、人の娘たちが、いかにも美しいのを見て、その中から好きな者を選んで、自分たちの妻とした。6:3 そこで、主は、「わたしの霊は、永久には人のうちにとどまらないであろう。それは人が肉にすぎないからだ。それで人の齢は、百二十年にしよう。」と仰せられた。6:4 神の子らが、人の娘たちのところにはいり、彼らに子どもができたころ、またその後にも、ネフィリムが地上にいた。これらは、昔の勇士であり、

名のある者たちであった。

さて、この出来事は一体何なのでしょう？「神の子らは」とありますが、聖書の中に天使が神の子と呼ばれることがあります。ヨブ記 1 章 6 節で、サタンが主のところに出てくる場面がありますが、こう書いてあります。「ある日、神の子らが主の前に来て立ったとき、サタンも来てその中にいた。」これは明らかに天使です。

「神の子」と言うと、私たちはまず神の御子を思い出しますね。これは永遠の関係において神の御子であり、ご自身も神です。そして私たちが、キリストを信じる信仰によって、神の子供になる、神の息子という身分を与えられることもあります(ガラテヤ 4:5)。神の養子になった、といえば分かりやすいですね。そして、ここに書いてあるように、天使も、神によって造られた存在として「神の子」と呼ばれます。

そして天使がなんと人間の女を見つけて、女を我が物とし、性的関係を結んだというのが、この場面です。なにか SF 映画にでも出てくるような異常な光景ですが、けれども、主が蛇に対して与えた言葉を思い出してください。女の子孫が蛇のかしらを打ち砕く、という約束を神が与えられました(創世記 3 章 15 節)。それで悪魔は、自分たちに従う墮落した天使たちを使って、人の子孫をめちゃくちゃにすることを行なったのです。

これらの墮落した天使に対する神の裁きが、ユダの手紙 6-7 節にあります。「また、主は、自分の領域を守らず、自分のおるべき所を捨てた御使いたちを、大いなる日のさばきのために、永遠の束縛をもって、暗やみの下に閉じ込められました。また、ソドム、ゴモラおよび周囲の町々も彼らと同じように、好色にふけり、不自然な肉欲を追い求めたので、永遠の火の刑罰を受けて、みせしめにされています。」、ソドムとゴモラが同じように好色にふけり、不自然な肉欲を求めた、とありますが、同じ罪によってこれら天使は、暗やみの中に閉じ込められたのです。最後の審判の時まで、彼らはこの監獄に閉じ込められています。

そして天使と人間の女の間のできたのが「ネフィリム」です。「昔の勇士」とありますが、この意味は実は否定的で、「反抗に勇ましい」という意味合いがあります。このネフィリムの存在によって、神は、120 年の猶予期間を置いて地上を裁くことにされたのです。ところで民数記において、約束の地を偵察にして、その住民に巨人がいる、「そこで私たちはネフィリム人、ネフィリム人のアナク人を見た。(13:33)」と言いましたが、それは恐れから出たデマであって、アナク人がネフィリム人ではありません。この時代にネフィリム人は洪水によって滅ぼされました。

そして神は私たちの霊に対して、ご自分の御霊をもって争われます。それで主はここで語られています。「わたしの霊は、永久には一のうちにとどまらないであろう。」この「とどまる」という言葉は、「争う」とか「奮闘する」と訳すこともできます。または、「引き止める」と言うこともできます。自

分に与えられている自由を、悪を行なうことだけに使っている時に、主が私たちの良心を通して、ご自分の霊によって悩ませ、苦惱させ、罪意識を持たせ、何とかしてその悪を捨てるように促してくださるのです。ですから、「こんなことをしては、自ら滅びを招くことになる。」という引き止めを行なわれます。私たちが、それがいくら煙たいと思われても、不快だと思っても、その葛藤がなくなったとき、それが裁きの時なのです。心に葛藤のあるうちに、主に自分の罪を告白して、悔い改めましょう。

6:5 主は、地上に人の悪が増大し、その心に計ることがみな、いつも悪いことだけに傾くのをご覧になった。6:6 それで主は、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。6:7 そして主は仰せられた。「わたしが創造した人を地の面から消し去ろう。人をはじめ、家畜やはうもの、空の鳥に至るまで。わたしは、これらを造ったことを残念に思うからだ。」

神の悔いとその心の痛みをここで感じる事ができるでしょうか？神は、人に自由意志を与えられました。自ら神に聞き従うことのできることも、また背くこともできる選択を与えられました。それが、善悪の知識の木が園の中央にあったことで表れています。ところが、その選択を、悪を行うことに用い、なんら妨げられることなく悪を行なっている姿を見て心を痛めておられるのです。神がご自身のかたちに造られた人が、その「かたち」があったがゆえに、かえって悪を行なっているのを見て悔いておられるのです。それで、地の面からご自分の創造物を消し去ることを決められました。

6:8 しかし、ノアは、主の心にながっていた。

この「しかし」が大事ですね。聖書で「しかし」という接続詞が出てきたら注目してください。主は、全ての生きたものを滅ぼそうとは思っておられませんでした。主は裁かれる方である以上に、恵み深い方です。そして、ここの「主の心にながっていた」というのは、もっと正確に訳すと、「**主の恵みに見出された**」です。ノアは正しい人でありましたが、それは、その前に神の恵みにあずかっていたからです。これは全てのキリスト者にも当てはまる原則です。「ローマ 3:24 **ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。**」一方向的に神に愛されていることを彼は知っていたからです。神に愛されているという確信が、私たちが主の前にまっすぐに歩むことのできる原動力です。

2B 主との契約 9-22

6:9 これはノアの歴史である。ノアは、正しい人であって、その時代にあっても、全き人であった。ノアは神とともに歩んだ。6:10 ノアは三人の息子、セム、ハム、ヤペテを生んだ。

ノアが正しい人だ、というのは、信仰によって義と認められていたからです。彼は、神の恵みを知り、そして神の語られることをことごとく信じました。大事なものは、「その時代にあって」という言葉です。その世代、自分の生きている世代において、その時流がいかに強かろうと私は、イエス・キ

ストの福音に生きるという決心です。その中で彼は主とともに歩みました。ですから「全き人」というのは、完璧な人という意味ではありません。主に十分に心を尽くして信頼した、という意味です。

6:11 地は、神の前に墮落し、地は、暴虐で満ちていた。6:12 神が地をご覧になると、実に、それは、墮落していた。すべての肉なるものが、地上でその道を乱していたからである。

当時、全世界が洪水になる前の世界の環境は今よりも非常に良いものでした。創世記 5 章を見ると、アダムからノアに至る系図がありますが、それぞれの世代の父が「息子たち、娘たちを生んだ」という表現があります。主が「生めよ、増えよ」と言われたように子沢山でした。そして、一人ひとりの寿命が非常に長いです。800 歳以上また 900 歳以上生きています。したがって、仮に一家族に六人の子供がいたとして、アダムから洪水の時までどれだけ人口が増えるか計算すると、1 億 3 千 7 百万人になります。日本国の人口とだいたい同じになっていたのです。

そして創世記 5 章で見るように、人々が開発する技術は発達していました。ですから、まさに現代社会とそっくりです。けれども、人間が科学の進歩と共に道徳的に、倫理的に発達したのかと言うと全然違います。これは私たちがよく知っている通りで、社会問題になっているニュースを見ると、目と耳を塞ぎたくないような話ばかりです。しかし、人々の生活は自分中心でそうした問題に対して無関心です。神はいろいろな注意喚起を行われていますが、自分の生活さえ良ければいいのだという自分中心なので、それでイエス様が言われたように、食べたり、飲んだり、めとったり、とついたりしていました。今も同じです。

6:13 そこで、神はノアに仰せられた。「すべての肉なるものの終わりが、わたしの前に来ている。地は、彼らのゆえに、暴虐で満ちているからだ。それで今わたしは、彼らを地とともに滅ぼそうとしている。6:14 あなたは自分のために、ゴフェルの木の箱舟を造りなさい。箱舟に部屋を作り、内と外とを木のやにで塗りなさい。6:15 それを次のようにして造りなさい。箱舟の長さは三百キュビト。その幅は五十キュビト。その高さは三十キュビト。6:16 箱舟に天窓を作り、上部から一キュビト以内にそれを仕上げなさい。また、箱舟の戸口をその側面に設け、一階と二階と三階にそれを造りなさい。

この「箱舟」という訳はとても良いと思います。舟というよりもまさに「箱」の形をしています。長さはメートルに直しますと約 132 メートル、幅が 22 メートル、高さは 13 メートルです。この形はどこかの目的地に向かって航行するのは非常に不都合な形ですが、転覆しないことについては最善の形です。私が知人の牧師さんから聞いたのですが、船舶の専門家の方がこの箇所を読んで信仰を持つに至った、とのこと。彼の専門知識によれば、この寸法が最も転覆しないものだったということです。

そして、その舟の壁を「木のやにで塗りなさい」とあります。ここの「やに」のヘブル語が「贖罪」つ

まり、「罪を贖う」あるいは「罪を赦す」という意味があります。神が、この箱舟に水が入らないようにされることは、ノアとその家族を神の裁きから守る意味があります。それはまさに、彼らの贖罪、罪を赦すことに他ならなかったのです。ここに私たちは、箱舟そのものがキリストを表していることを見ます。キリストの流された血が私たちの罪を赦し、贖う力となっており、それで私たちは神の怒りから救われます。

6:17 わたしは今、いのちの息あるすべての肉なるものを、天の下から滅ぼすために、地上の大水、大洪水を起こそうとしている。地上のすべてのものは死に絶えなければならない。6:18 しかし、わたしは、あなたと契約を結ぼう。あなたは、あなたの息子たち、あなたの妻、それにあなたの息子たちの妻といっしょに箱舟にはいりなさい。6:19 またすべての生き物、すべての肉なるものの中から、それぞれ二匹ずつ箱舟に連れてはいり、あなたといっしょに生き残るようにしなさい。それらは、雄と雌でなければならない。6:20 また、各種類の鳥、各種類の動物、各種類の地をはうものすべてのうち、それぞれ二匹ずつが、生き残るために、あなたのところに来なければならない。6:21 あなたは、食べられるあらゆる食糧を取って、自分のところに集め、あなたとそれらの動物の食物としなさい。」

ここに主が与えておられる「初めの契約」があります。18 節に「契約を結ぼう」とありますね。神は契約を結ばれる方です。約束を必ず守られる方であり、真実な方です。契約のためのしるし、また保証を与えられる方です。イエス様が、新しい契約を弟子たちと結ばれる時も同じでした。これが、新しい契約のための新しい血です、と主は言われました。

そして、各種類の動物を、雄と雌の二匹ずつが来るようにさせるのは、洪水の後に動物が繁殖することができるようにするためです。

6:22 ノアは、すべて神が命じられたとおりにし、そのように行なった。

この一言が、ものすごいことです。創世記 2 章 6 節によると、水は地下水が地から出ていただけで雨が降っていませんでした。それなのに全地を覆う大洪水を起さることを彼は信じたのです。「信仰によって、ノアは、まだ見ていない事柄について神から警告を受けたとき、恐れかしこんで、その家族の救いのために箱舟を造り、その箱舟によって、世の罪を定め、信仰による義を相続する者となりました。(ヘブル 11:7)」そして、ただ頭だけで信じたのではないことが分かりますね。「命じられたとおりに、そのように行なった」とあります。箱舟を造るという行ないを持って、彼が本当に神の言葉を信じていることが明らかにされています。

2A 洪水の裁き 7

1B 七日前の警告 1-10

7:1 主はノアに仰せられた。「あなたとあなたの全家族とは、箱舟にはいりなさい。あなたがこの

時代にあって、わたしの前に正しいのを、わたしが見たからである。

6章と7章には、百年間の空白期間があります。ノアが息子を生んだのは五百歳で、箱舟に入るのは六百歳の時だったからです。箱舟を造り始めることもすごい信仰ですが、それを百年間も行なっていることは、もっとすごい信仰です。「わたしの前に正しいのを、わたしが見たからである。」という言葉は、「ずっと見てきたよ」という神の経験と確認の言葉です。

彼は、箱舟を造りながら説教も行なっていました。ペテロ第二 2 章 5 節に、「また、昔の世界を赦さず、義を宣べ伝えたノアたち八人の者を保護し、不敬虔な世界に洪水を起こされました。」とあります。結局、彼が神の義を説教したことによって救うことのできた魂は、ゼロです！もちろん家族八人以外に、誰もこの警告を心に留めた人はいませんでした。でも彼は信じたのです。忍耐して最後まで信じることの大切さをここで教えられます。

7:2 あなたは、すべてのきよい動物の中から雄と雌、七つがいつ、きよくない動物の中から雄と雌、一つがいつ、7:3 また空の鳥の中からも雄と雌、七つがいつを取りなさい。それはその種類が全地の面で生き残るためである。

「清い動物」と「清くない動物」というのは、後に神がモーセに対して律法として与えられる区別です。レビ記 11 章にあります。そして他の動物は二匹ずつなのに、なぜここでは七つがいつなのかといいますと、その理由の一つがいけにえを捧げるためです。ノアは洪水が引いた後に箱舟から出てきた後に初めにしたことは、全焼のいけにえを捧げるためでした。

7:4 それは、あと七日たつと、わたしは、地の上に四十日四十夜、雨を降らせ、わたしが造ったすべての生き物を地の面から消し去るからである。」7:5 ノアは、すべて主が命じられたとおりにした。

百年前は、「箱舟を造りなさい」という命令に聞き従いました。ここでは、「箱舟に入りなさい」という命令に聞き従っています。これも信仰が要りますね。もし雨が降ってこなかったらどうするのでしょうか？周囲の人々に対して面目つぶれです。それでも彼は従いました。

7:6 大洪水が起こり、大水が地の上にあったとき、ノアは六百歳であった。7:7 ノアは、自分の息子たちや自分の妻、それに息子たちの妻といっしょに、大洪水の大水を避けるために箱舟にはいった。7:8 きよい動物、きよくない動物、鳥、地をはうすべてのものの中から、7:9 神がノアに命じられたとおりに、雄と雌二匹ずつが箱舟の中のノアのところにはいつて来た。7:10 それから七日たつて大洪水の大水が地の上に起こった。

神がノアに命じられたとおりに、地上から雄雌二匹ずつの動物がやってきました。私たちは、これがおとぎ話ではないことは、普段の動物の行動を見ても明らかです。地震などの災害の来る前

に、すでにそれを感知して普段と違った行動を取ります。ここでは地球の全面を覆う大洪水ですから、なおさらのこと動物たちが箱舟のところに来るのは現実味があるでしょう。

2B 全世界を覆う水 11-24

7:11 ノアの生涯の六百年目の第二の月の十七日、その日に、巨大な大いなる水の源が、ことごとく張り裂け、天の水門が開かれた。7:12 そして、大雨は、四十日四十夜、地の上に降った。

モーセは、「ノアの生涯の六百年目の第二の月の十七日」と、正確な期日を書き記しています。つまりこれは神話でも比喩でもなく、紛れもない歴史的事実だったことを伝えるためです。

そして、水源は二つありました。「巨大な大いなる水の源」と「天の水門」です。前者は地下水です。創世記 2 章 6 節に「霧が地から立ち上り」とありますが、これは地下水と訳すことができます。そして後者は天にあった水のことです。これは単なる水蒸気ではなく、創世記 1 章 7 節によると、当時は水の層が天にありました。それが一気にはじけました。

そして四十日四十夜、雨が降っています。モーセはこれを書いている時、自分自身の人生を思い出していたかもしれません。彼が 40 歳の時、エジプトから逃げミデヤンの地で羊飼いとなりました。そして 80 歳の時、エジプトに戻りイスラエルをエジプトから連れ出しました。そして 120 歳のとき、約束の地の東まで来て、創世記から申命記までの神の言葉を書き記しています。

聖書には「四十」という数字が数多く出てきますが、それは「神の裁き」や「試み」を示すことが多いです。また、これまで私たちは「七」の数字も数多く見ましたね。七つがいの動物、そして先ほど出てきたエノクは、アダムから七代目の人でした。そしてもちろん、創造から七日目を主は聖とされました。これは「神の数字」と読んでも良いかもしれません。神ご自身の性質を示す時に出てくる数字です。

7:13 ちょうどその同じ日に、ノアは、ノアの息子たちセム、ハム、ヤペテ、またノアの妻と息子たちの三人の妻といっしょに箱舟にはいった。

分かりますか、彼らが入ったのは、洪水が来る前の直前の、そのまた直前だったのです。それから洪水が起こったのです。このように神の裁きは突如として襲います。今、それらしき兆しがなかったとしても、それが安泰の徴ではないのです。イエス様がルカ 17 章で語られた通りです。使徒パウロも、このように警告しています。「1テサロニケ 5:3 人々が「平和だ。安全だ。」と言っているそのようなときに、突如として滅びが彼らに襲いかかります。ちょうど妊婦に産みの苦しみが臨むようなもので、それをのがれることは決してできません。」

7:14 彼らといっしょにあらゆる種類の獣、あらゆる種類の家畜、あらゆる種類の地をはうもの、あ

あらゆる種類の鳥、翼のあるすべてのものがみな、はいった。7:15 こうして、いのちの息のあるすべての肉なるものが、二匹ずつ箱舟の中のノアのところにはいった。7:16 はいったものは、すべての肉なるものの雄と雌であって、神がノアに命じられたとおりであった。それから、主は、彼のうしろの戸を閉ざされた。

主が、戸を閉じられました。これはノアとその家族が洪水から救われるための神の行動であり、と同時に、不信者に対する最終的な裁きの徴であります。神は最後の最後まで、他の人たちもこの箱舟に入ってきて良いように、戸口を開いておられたのです。けれども、その最後の機会さえないがしろにするなら、もう残されているのは恐ろしい裁きしかないのです。

雨が降り始めて来て、水かさが増してきた時に、おそらくは地上の人々は箱舟のところまで来て助けを求めたでしょう。けれども、もう遅すぎます。目で見るときにはすでに遅いのです。多くの人々は、「見なければ信じない」と言いますが、死んで、そして地獄の火の中で苦しみにあってからではもう遅すぎるのです。信じるのは、まだ見ていないから信じるのです。「信仰は望んでいる事からを保証し、目に見えないものを確信させるものです。(ヘブル 11:1)」

7:17 それから、大洪水が、四十日間、地の上にあった。水かさが増していき、箱舟を押し上げたので、それは、地から浮かび上がった。7:18 水はみなぎり、地の上に大いに増し、箱舟は水面を漂った。7:19 水は、いよいよ地の上に増し加わり、天の下にあるどの高い山々も、すべておおわれた。7:20 水は、その上さらに十五キュビト増し加わったので、山々はおおわれてしまった。

一キュビトは肘から人差し指までの長さで約 44 センチですから、十五キュビトは 6.6 メートルです。ここでは、はっきりと世界で最も高い山も水に覆われたことを述べています。聖書批評家たちの間で、ノアの時代の洪水は確かにあったが、それは地域的なものであったという意見があります。けれども、この記述を読めば注意深く、全世界に及んだものであることは明らかです。かつて全世界的な洪水が起こったことを示す証拠は数多くあります。

一つは、エベレスト山の頂上付近に魚の化石が見つかったことです。二つ目は、マンモスの化石の腹にまだ消化していない草が残っていたことです。草が消化する時間もなかったことを示しています。そして三つ目に、世界中の二百以上の文化に洪水の神話があることです。その 88%は、救われた家族について書き記しています。70%は、舟による救いを語っています。66%が人間の罪悪が原因であったことを記しています。67%は動物も救われたことを書いています。そして 57%は箱舟が山の頂上にとどまったことを書いています。そして多くの神話が、鳥が放たれたこと、虹のこと、そして八人が救われたことに言及しているのです。

私たちの知っている「船」という漢字もその証拠です。部首の「舟」に旁が「八」に「口」ですね。中国語では家族の人数を数えるとき「口」を使います。つまり、「舟に家族八人が入っていた」という

意味になっているのです。ノアとその妻、息子三人とそれぞれの妻の八人が舟に入っていたという記録を「船」という漢字が残しています。

7:21 こうして地の上を動いていたすべての肉なるものは、鳥も家畜も獣も地に群生するすべてのものも、またすべての人も死に絶えた。7:22 いのちの息を吹き込まれたもので、かわいた地の上にはいたものはみな死んだ。7:23 こうして、主は地上のすべての生き物を、人をはじめ、動物、はうもの、空の鳥に至るまで消し去った。それらは、地から消し去られた。ただノアと、彼といっしょに箱舟にいたものたちだけが残った。

つまり、箱舟が彼らにとって神の裁きからの救いでした。このことから使徒ペテロは、箱舟はイエス・キリストを表していることを教えています。「その霊において、キリストは捕われの霊たちのところに行ってみことばを宣べられたのです。昔、ノアの時代に、箱舟が造られていた間、神が忍耐して待っておられたときに、従わなかった霊たちのことです。わずか八人の人々が、この箱舟の中で、水を通して救われたのです。そのことは、今あなたがたを救うバプテスマをあらかじめ示した型なのです。バプテスマは肉体の汚れを取り除くものではなく、正しい良心の神への誓いであり、イエス・キリストの復活によるものです。(1ペテロ 3:19-21)」

水のバプテスマを受けるとき、水は墓を意味しています。古い自分がキリストと共に死に、葬られたことを表しています。そして水から出てくる時、キリストと共によみがえったことを表しています。世界の人々が水によって滅んだように、古い私は水の中で死にました。けれども箱舟にいたノアとその家族の命が救われたように、イエス・キリストのうちに私が入り、救いを受けています。

7:24 水は、百五十日間、地の上にふえ続けた。

雨は 40 日目でやみましたが、水そのものは 150 日間増え続けました。

このように、ノアの時代の洪水はこれから下る神の裁きを表しており、またキリストにあって神が裁きを十字架上で下して下さったその贖いも表しています。